

第1回第六中学校区地元代表者協議会 会議録

1 日 時 令和5年2月8日（水）18時30分～20時30分

2 場 所 第六中学校 メディアセンター

3 出席者 (1) 委員 20名
(2) 米沢市教育委員会教育長 土屋 宏
事務局 教育指導部長 山口 玲子
教育総務課長 高橋 利明
学校教育課長 植木 修
学校教育課 適正規模適正配置推進主幹 森谷 純
学校教育課 適正規模適正配置推進室長 樋口 進一
学校教育課 主事 田村 美佐保

4 内 容

- (1) 開会
- (2) あいさつ (教育長)
- (3) 自己紹介 (委員および事務局)
- (4) 地元代表者協議会の概要について
- (5) 会長及び副会長の選出 (会長 竹田博明委員、副会長 木村正勝委員)
- (6) 統合に係る意見書の取りまとめについて
- (7) 協議
 - ①米沢市立学校適正規模・適正配置推進等基本計画について
 - ②地元代表者協議会の進め方について
 - ③統合に向けての意見について
 - ④その他
- (8) 第2回協議会の開催日程について
- (9) 閉会

(7) 協議について

(会 長) 初めに「米沢市立学校適正規模・適正配置推進等基本計画について」説明をお願いします。

《 事務局から説明 》

(会 長) 以上の説明について、質問はいかがか。

(委 員) 参考までにお聞かせいただきたいのだが、本日いただいた資料データ集の最後のページにある（仮称）北中の令和8年度の生徒数が530人とあるが、そうなった場合、合計17クラスとなるようだが、四中で入れるクラス数や教室数はどのくらいあるか教えていただきたい。

(事務局) 実際の教室数は、その時々々のクラス数等の状況によって、学習室を教室にしたりと流動的に使っているが、現在の四中の規模だと、統合時点では大きな改修等の必要はなく、全クラス数入れるということで確認しています。

- (委 員) 特別支援学級が0となっているが、今の子どもを取り巻く複雑な環境を考えると、特別支援学級は必要不可欠なものでないかと思う。設置されないということなのか、どのような考え方なのか教えてほしい。
- (事務局) 資料データ集では「0」となっているが、特別支援学級に在籍予定の子どもたちの数がまだわからないということから「0」としています。現在も、四中では特別支援学級はあり、知的学級と情緒学級を設置している。子どもの数によっては、例えば、知的学級2クラスというのはあるかもしれないが、今後どのような流れになっていくかについては、小学生の段階からどういうふうになっていくかを見据えながら進めていきたいと考えています。教室については、そのことによって不足することはないと捉えています。
- (会 長) 当時と変わっているかはわからないが、私の記憶では、平成30年度の時点では、教室として使えるのは21教室と聞いていた。他に質問のある方はいませんか。なければ、次に、「地元代表者協議会の進め方について」説明をお願いします。
- 《 事務局から説明 》
- (会 長) 以上の説明について、質問はいかがか。
- 《 質問なし 》
- (会 長) 次に、「統合に向けての意見について」説明をお願いします。
- 《 事務局から説明 》
- (会 長) 以上の説明について、質問や意見はいかがか。自由に出していただきたい。
- (委 員) 四中に行くのは、決まったのか。そのあたりお聞きしたい。六中はいい学校だと思っているのだが、四中が六中に来るというのはないのだろうか。
- (会 長) 平成30年度の段階だと、六中の教室では17クラスが確保できないと聞いていた。また、一中、五中、七中も教室の確保ができないので、段階的に統合になるようで、そのあたりは学校のキャパというところからの選定だと思うが、どうか。
- (事務局) 会長のお話のとおり、令和8年度統合する際に必要となる教室数が普通教室で17で、六中の現在の校舎では確保できません。そのため、校舎として四中を統合後の学校施設として使用していくということを基本計画の策定段階で方向性を定めさせていただきました。なお、検証の結果、現四中校舎の現在使っていない教室等を普通教室に変更するなどの手直しにより十分使用できると考えたところです。
- (委 員) 子どもたちにとって、やはり環境は大切だと思っている。小学校と違って、中学校から社会に出ていく人もいるわけだから、一緒になるのはいいと思う。ただ、六中はこんなに立派な環境で、もったいないと思うわけで、教育に対しては絶対金を惜しんではいけないと思っている。ここから四中にいくとなると、駐車場やグラウンドは狭い。四中のサッカー部は人工芝のグラウンドでやっているみたい

でちょっとかわいそうだと思っている。四中は狭く、周りが家しか見えない。六中は農村のすばらしいところでのびのびとしており、教室も明るいし、広い立派な廊下もあるし、そういうところで育てられたらいいなあということだけ思っている。大きいところにくわれるというか、四中は多いし、あえて四中に入れる人もいようだが、一中とか二中とか大きいところが立派だと思っているのかわからないが、この六中はすごくいい環境だと思っているので、子どもたちはこういうところで育ててほしいと思っている。

(会 長) そういう思いをどんどん出してほしい。こういう意見があって、それらを理解して進めることは大事だと思う。

(委 員) 今日はたくさん資料をいただいたので、これからじっくり読ませていただきたい。六中は特別な勉強の環境で、他の学校とは違う環境だと思っているが、四中と一緒になったときに、子どもたちのとまどいとかはないだろうかと思う。うちの孫は3年にあがるときに統合になる。3年という受験の時期でもあり、六中の環境から四中の学校施設を使つての環境に変わること、どのように変わるのか素朴な疑問である。

(事務局) 確かに、六中は教科型教室ということで、各教科の学習に応じて子どもたちが教室を移動して授業に臨んでいるというのが、六中の授業スタイルになっている。四中は教科型教室でなく、学級教室に教員がやってきて授業を行うという通常のスタイルになっている。スタイルの違いということは、四中の校舎を使うことで慣れるまで少し時間がかかるかなとは思っていますが、そういったところも事前の交流事業の中で四中の校舎に行つて一緒に授業を受けたり、どういった交流事業を計画するかにもよりますが、統合してから初めて体験するわけではなく、統合前から徐々に慣れていけるようにしていきたいと思っています。授業だけでなく、部活動や生徒会活動なども交流を大事にしながら、子どもたちがだんだんなじんでいけるように、そして、四中生、六中生がお互いに統合が楽しくなるような交流にしていきたいと考えています。

(委 員) グラウンドに給食センターが建設される計画があると思うが、そちらのスケジュールがどのようなになっているか教えていただきたい。

(事務局) 給食センター、いわゆる共同調理場ですが、来年度1年かけて事業者の選定作業に入る予定。その後、設計業務、建設事業に入り、令和8年度4月に共同調理場の運転を開始できるように進めているところです。

(委 員) 令和7年度は中学校がやっているところで、工事がなされるということか。

(事務局) ご指摘のとおりです。学校が運営されているところで工事が入ってくるということで、安全確保については十分配慮しながら工事を進めていきたいと考えています。

(委 員) だとすると、私は、四中校舎に教室数が確保されないから、令和8年度に統合だと思っていたが、先ほどの話のとおり21クラス分の教室が確保されるということなら、別に早く統合を前倒ししてほしいというつもりはないし、私もできればこの広い環境の中で今までのような六中独自ののびのびとした教育を継続してほしいと思うが、現実ここで工事が始まるということを考えれば、子どもたちの環境を考えたときに前倒しすることも考え方としてあるのではないかと思うが、前倒しされる可能性はあるのかお聞きしたい。

(事務局) この協議会場でいろいろご協議いただきながら、最終的に統合の準備を進めていくために、協議会から意見書をいただくこととしているので、例えば、統合年度ももう一度よく考えて決めていったらどうだということを意見として頂戴することもあり得ることと考えています。さまざまな意見をいただきながら、統合準備委員会の方で具体的な話になるということで、この場でいろいろ意見を出していただきたいと思う。一方、スケジュールを見たとき、例えば、もし令和7年度に統合となると、2年前の令和5年度から交流を進めて統合に向けた心の準備や交流を行うなど、様々考えたとき、時間的に厳しくなるということがあります。制服なども新しくする予定で検討に入っていますので、様々な準備を考えるとこのスケジュールで進められればという思いで提案していますので、そういったところも踏まえて総合的に判断させていただきたいと思っています。

(委 員) 窪田地区は23の町内があり、5地区が六中にお世話になっている。他の18地区は四中にお世話になっている。18地区はそのまま四中ということなので、こういった説明会や組織づくりは他の窪田の地区の方でもするのかどうか。

窪田小の1割、数名が、今の5年生と4年生だと1年で四中に行ってしまうことになるはず。我々は、何人くらいが六中に行くことになるかはわからないが、もごさいような仕組みをとらせるより、数人なら最初から四中に行かせるような対応は可能なのか。これは、PTAや保護者の考えで結構だと思うが、5地区の数人の子どもたちが四中に行くことは可能なのか。

(事務局) 最初の質問について、六中の地元代表者協議会ということで、第1回目を開催させていただいています。この協議会の単位としては、閉じる学校単位で開催させていただいています。同じように四中も閉校することになるので、第四中学校区の地元代表者協議会をこれから開催する予定です。四中学区の窪田地区の代表の方を委員として推薦いただき、開催することになります。

(事務局) 2つ目の質問について、窪田小の今の4年生5年生で六中に通う子どもたちが、統合するのが分かっているのなら、事前に最初から四中に行くことは可能かということについてですが、現在考えているところとしては、現在行っているとおり、まずは六中に入学していただきたいと考えています。どうしてもという場合には、学区外通学ということも規定としてはありますが、学区外通学となると基準もいく

つかあり、現在のところ統合の内容は盛り込んでいないところです。窪田小から六中に行く子ども達については、最後まで六中に通ってもらいながら六中生として過ごしてもらって、中には1年間だけ六中に通う子ども達もいますが、六中生として過ごした後、新しい中学校である（仮称）北中をみんなで作るといった統合の仕方を考えているところです。

（委員） わかったが、我々地区としては、何人が六中にお世話になるかわからないが、もし数人となるのであれば、窪田小の卒業式ではもごさいような気もする。それよりも最初から基準という言葉もあったので、そういった意味合いでもPTAや保護者が今後の話し合いでそうやろうとなれば可能ということも検討させてもらってよろしいか。

（教育長） 気持ちはよくわかる。ただ、子どもたちが大人になっていくときに大事にしなければいけないことは、社会全体のルールやみんなで決めているルールに従って、我慢しなければならないことは我慢してやっていくんだという生き方の部分を大事にしなければいけないと思う。なので、つらいことはもちろんあるわけだが、大人の人みんなが1つのルールに従った形で応援していただけるとありがたいと思っているところです。

（委員） 今、教育長が我慢も人生の教訓だということで、私も窪田小から六中に来た一人だが、1年生の時は非常に不安だった。自分の息子も孫も今六中にいるが、卒業式は他の3地区で考えられないほどの涙である。他の委員が言った意見も考えてもらって、これから新しい中学校にお互いに行くんだとなれば、いろいろ問題もあると思う。六中にも広井郷中学校にも愛着があるからいろんな意見が出ると思う。

窪田の人は我慢して何十年とここに来た。それもわかってもらいたい。ここがかなりいいところだとおっしゃる委員もいるが、窪田は分かれて行かなければいけないという悲しいことがある。六郷、広幡、塩井の方は全員ここに来るから何も問題ないと思うが、わからない範囲の地区の方とも話し合っていかなければならないわけで、いろんな問題があるかと思うが、窪田は今まで何十年も大変だった。窪田地区では中学校の話は禁句だったというくらいの歴史がある。そういったこともわかってもらいながら、六郷、広幡、塩井の方もいろいろ問題はあると思うが、これから四中に全員で行くんだという気構えを前提として持ってもらって、よりよい話をしてもらいたいと思う。これが私の意見である。

（事務局） 今、窪田地区のこれまでつないできた歴史の中でさまざま感じていることを体験も含めてお話しいただいた。現在お子さんを持つご家庭のそれぞれの考えもあるかと思えます。先ほどから説明させていただいているとおり、現在の学区制度を続けながら統合に向かっていきたいという基本的な考えは変わっていませんが、それぞれの思いを次回以降も出していただきながら、統合に向けた話し合いを進めていただきたいと思います。そういった意味での協議会なので、いろいろな立場からの意

見を頂戴したいと思っています。

(委員) 私は、統合することには反対していない。ただ、校舎がこっちにあった方がいいのではないかと考えているだけ。でも使えないというならしょうがないとも思っている。四中ということで話が進んでいるところだが、せっかくこんなにいい校舎があるのだから、こっちで勉強したらいいのではないかという気持ちがある。

(委員) 窪田の今まで大変だった生徒たち、川を越してこっちまでやってきた我々もだけど、本当に少数で、いじめられた生徒もいたようだ。なので、3地区より、窪田地区の親の方が圧倒的に大変だったと思う。この度の統合にあたって、窪田地区の全部の生徒が1つの中学校に行くということは非常にいいなと思った。これは念願だった。窪田地区では、四中の話もできない、六中の話もできなかった。窪田地区の中では中学校の話ができなかった。今回、小学校・中学校のよりよい方向性を窪田地区全員で話し合えと思った。3地区の方はそういうことはあまり感じていないと思うが、窪田地区の現状としては早く統合していただきたいと思っている。

(事務局) このロードマップに沿って、令和8年度開校を予定している四中・六中、二中・三中も同じように地元代表者協議会を開かせていただいて、統合に向けて進めていくところです。五中は、1年早く令和7年度に一中の方に行くのですが、東部小が一中と五中に分かれます。人数でいうと五中に行く子ども達が少ない状況です。

また、松川小は、五中に行く子ども達が多く一中に行く子ども達が少ないということで、今度は、全員一中にいけるという状況です。他の小学校でも2つの中学校に分かれたり、あるいは3つの中学校に分かれるような小学校もありますので、そういったところを解消していきたいという思い、そして、1つの小学校から1つの中学校に進学することにより、子どもたちを9年間で育ていくということで、小学校と中学校でもっと連携していきたくという思いがあります。

このような思いから、1つの小学校から全員同じ中学校に行くという計画をたてたものです。今、お話があったように、1つの小学校から1つの中学校にという考えが改めて大事だと感じ、背中を押していただいたような気がします。ありがとうございます。

(委員) 現に今、子どもを通わせているが、統合して部活動も充実するとは思っているが、敷地的な検討はどうなっているのか。狭いので輪番制でグラウンドを使うのか、それとも別に用意するのか。あと、働き方改革で、土日、先生は部活動をやらないという話も聞いているが、その件についても回答できるのであれば、私たちは情報を知りたいので、教えていただきたい。クラブ活動ですという話もちらほら聞くが、未来的に考えれば先生達も大変なので、どういう方向性なのか聞きたい。

(事務局) 第四中学校はグラウンドが六中より広くないので、部活ごとにいろいろ工夫をして活動しています。統合したときも、工夫しながらの部活動になるかと思います。

例えば、六中のグラウンドに、共同調理場ができますが、グラウンド全部を使用

するわけではなく、その一画を使用するという事で、残りは広く使うことができます。令和9年度からは、広幡小・六郷小・塩井小が統合して統合小学校ができるわけですが、統合小学校として使う校舎が現六中施設になりますので、引き続き小学生の子どもたちが使っていくことになります。

例えば、夕方からの時間帯は（仮称）北中の子どもたちが、統合小のグラウンドを使って活動するということも可能かと思っています。部活動の地域移行ということで、報道でもだいぶ話題になっていますが、国からは、土日や休日から移行してはどうかということで進めるように言われています。当初、令和5年度から7年度までの3年間で、休日の部活動を地域に移行するようにと示されていましたが、先月には、3年ということにとらわれず、地域の実情に合わせてもう少し長い目で地域の移行を考えてもらいたいと国の方針も少し転換されたところがあります。

引き続き地域移行については、私たちも国の動向をみながら検討していきますが、一気にというよりは段階的に、ここから何年間か時間をかけながら、どんな地域移行をしていくか協議していきます。まずは、子どもたちが活動できなくて困るような状況にならないように、子どもたちが引き続きスポーツや文化活動に打ち込めるように環境を整えながら地域移行できるように考えているところです。

（委員） 南原中が二中に統合したとき、交流事業の時に部活動も移行した形だったのか。

そういう感じで六中もなるということか。統合する前からあわせる感じなのか。

（事務局） 南原中と二中が統合したときには、交流事業の時から一緒に部活動をしていました。大会に行くと、まだ統合前でしたが、南原中と二中がお互いに応援し合うこともありました。六中と四中の場合だと、六中にな部活動が四中にはあるということもあります。統合中学校でどのような部活動を整備していくかということについては、今後開催する統合準備委員会の方で詳しく協議していただくことになります。南原中と二中の時には、南原中にな部活動が二中にあるということで、統合したときにどの部活動に入るかということが話題になっていたようでした。自分の好きな部活動に入れるように、例えば、統合したときに3年になるという時でも、今までの部活動ではなく、新しい部活動に入りたいということも認められていた状況でした。実際には、統合前の部活動を続けた子どもたちがほとんどだったようですが、子どもたちが選べるような環境づくりをしてきたところです。

（委員） これは、統合準備委員会で検討することかわからないが、六中と地区とのかかわりは、お世話になったりお世話したりという関係性がある。具体的には、広井郷地区の文化祭で、吹奏楽部が来て演奏してくれたりして交流もあって非常につながりがあったような思いがする。新しい学校が、人数的に六中の生徒が少ないので、そういった事業も話にもならないんじゃないかと思うところもある。そういったことができなくなるのでないかと思っている。地区としての行事ができなくなってしまうのでないかと思うので、準備委員会の方では地域から希望があったと書いていた

だいて検討してもらいたい。

(事務局) この4月に統合を予定している三沢東部小・三沢西部小・西部小の統合準備委員会でも、今までの学校と地区の行事や地区と一緒にやってきた様々な行事をどのようにしていくかについて、統合準備委員会の中でも議論いただいていた。今までは学校と地区の方が一緒にできたものが、これからは学校がないということで、地区の子どもたちと地区の方々がどうお付き合いをするのか、地区としてどう子どもたちを地区の活動に向けていくのかというところを、コミセンさんを中心に検討いただいていた。無理をしてしまうと息切れしてしまい最初から無理となってしまう可能性もあるということで、最初はこんなことならできるんじゃないかというところを、地区の皆さんと保護者の皆さんで話をさせていただきながら、これならばやってみようかとか、最初は試行的なこともあるかもしれませんがこんな形で地区で子どもたちと行事をやってみようといった検討をしていただいたようです。地区と学校が本当に密接につながっていた分、今度は、どういうふうに地区と子どもたちがかわっていくかというところは、統合準備委員会の大きなテーマになっていくと考えています。

(会 長) 「その他」について何かないか。

《事務局なし》

(委 員) 教育長に1点お尋ねしたい。ここ3年コロナ禍で、地区の組織が弱体化している。そんな中で、国も5月8日からマスクなしの話が発表になり、なんとか地区としても対外的な活動を行いたいと思っている。これには、学校の参加も不可欠である。やはり現場の校長先生は子どもたちを預かっているという観点から、参加がなかなか厳しい状況だとは思いますが、教育長が学校現場への通達、通知がいちばんでないかと思う。5月8日以降、コロナ禍以降の地区への活動、地区への協力、そして活動に対して、教育長としてどのような指針、方針を持っているかお聞かせいただきたい。

(教育長) 学校は、学校だけで成り立っているものでなくて、学校教育は、地域と一体となって進めていくべきものと考えています。各校長先生方に、今年度の春にも申し上げたのですが、これから少子高齢化で米沢の人口も減っていく。いちばんは子どもたちがこの米沢を将来背負っていくわけですが、そのためには直接的には米沢に就職してもらいたい。就職しなくても、米沢にかかわりを持ってもらいたい。そのためには、自分が通う学校が好きだ、地域が好きだ、もっと言えば米沢が好きだという子どもを育てないことには、将来米沢にいたいと思わなくなってしまうと思いますので、そこを頑張ってもらいたいと話しています。なので、コロナの状況がおさまってくれば、やれることはぜひやってほしいと話しているし、そんなふうに進めていきたいと思っています。最近、学校が地域から離れているのではないと言われることがあります。確かに、学校が一番に考えてきたのは、学校の

中でクラスターを起こさないこと。起こしてしまうと、子どもが家に帰ってお年寄りにうつしてしまっ、お年寄りが重篤な状況になってしまう心配があるからでした。そこだけは絶対に避けたいという思いもありました。

(会 長) 他に質問はいかがか。無ければ以上で協議終了とする。ありがとうございました。